



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータの利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名：中村 和哉（臨床研修部）

【研究責任者】

聖路加国際病院 臨床研修部 中村 和哉

【指導医】

聖路加国際病院	一般内科	富田 詩織
聖路加国際病院	一般内科	有岡 宏子
聖路加国際大学	公衆衛生大学院	大出 幸子

嚥下機能低下をきたした 80 歳以上の方を対象とした

胃瘻造設後の予後に関する研究

1.研究の対象

2015 年 4 月から 2021 年 7 月までの間に当院で入院加療を行い、嚥下機能が低下し食形態を調整した状態で退院した 80 歳以上の方。

2.研究の目的・方法

現在日本は超高齢化社会化しており、今後社会全体として後期高齢者数は増加していくことが予想されます。高齢化に伴い、多数の併存疾患を抱えた高齢患者さんの増加も見込まれ、嚥下機能が低下した場合にどのように栄養摂取を行うか悩むケースも増えてきています。過去の研究では、胃瘻造設を行っても誤嚥性肺炎の発症リスクは低下させない・生命予後を延長させない可能性が既に報告されています。しかしそれらは比較的若年者も含む検討であり、本研究では、特に今後増加するであろう 80 歳以上の嚥下機能が低下した患者さんへの胃瘻増設が、生命予後にどう影響を与えるのかを明らかにすることを目的としております。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2022 年 3 月 31 日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 カルテ番号、年齢、性別、退院前の身長・体重、既往歴、入院時及び退院直前の血液検査データ、1 年後の健康状態について 等